



佐渡鷺流狂言研究会(佐渡市竹田) 平成22年度 地域伝統文化功労者表彰受賞

3月1日、新潟県指定無形民俗文化財の「佐渡鷺流狂言研究会」(竹田)が、公益財団法人伝統文化活性化国民協会から地域伝統文化功労者表彰を受賞されました。この表彰は、同協会が伝統芸能など地域文化の振興に功績があった個人・団体を対象に毎年度行っているもので、本年度は全国で10人・13団体が表彰されました。

同研究会は、存亡の危機にあった鷺流狂言を復活させようと昭和56年に発足し、芸の研鑽と伝承に努める傍ら、長年にわたり市民を対象とした「狂言講座」の開設や真野中学校に「狂言クラブ」を設けて後継者の育成に尽力するなどの功績が認められたものです。おめでとうございます。



ご寄付ありがとうございました

- LED防犯灯18灯(取付工事一式含む)
東北電力株式会社 佐渡営業所長
八木沢 薫 様
- 株式会社ユアテック 佐渡営業所長
金子 博文 様

学校給食に佐渡産野菜を

3月3日、農業を営む女性の方々で構成される「農村地域生活アドバイザー佐渡市連絡会」の研修会が、国仲学校給食センターで行われました。約20人の会員が参加し、学校給食で使われる野菜の下処理の様子や、給食づくりの現場を見学し、佐渡産野菜の出荷拡大や使用率向上に向けて学びました。市では、学校給食において地場産物の使用を拡大するため、「学校給食生産組合」の組織づくりに取り組んでいます。



佐渡のお菓子「しんこ」づくり

佐渡でひなまつりに作られるお菓子「しんこ(おこし型)」づくりが、3月6日、泉公民館(金井)で行われました。しんこは、赤や黄、緑などに色づけされた団子生地を花や鯛などの木型にはめて型抜きし、椿の葉に乗せて蒸したお菓子です。中に詰めたあんこが飛び出したり、型からなかなか出てこなくて苦勞する場面もありましたが、色鮮やかなしんこがたくさんできあがりました。



相川と両津でひなまつり

3月1日~21日に「佐渡國相川ひなまつり」と「佐渡両津のおひなさまお宝めぐり」が開催され、民家や商店に飾られたひな人形で町は華やぎました。関連イベントとして、「相川のお寺めぐり涅槃図展」も行われ、相川地区の寺院が所蔵する貴重な涅槃図が公開されました。



江戸時代末期のおひなさま

倉谷の大わらじ

3月6日、倉谷集落(真野)で、集落に飾る大わらじの掛け替えが行われました。この大わらじには、昔、悪事をはたらこうとこの集落に入ろうとした悪人が「こんな大わらじをはく大男がいてはかなわない」と逃げ出した、という伝説があります。わらじづくりは、わらを編みやすくするため機械に通して叩き、その後、ほどけないよう力を込めて編み始めていきます。できあがった大わらじは、長さ約2メートル、幅約1メートル。集落の入り口2か所に飾られて、温かく地域の人々を見守りつづけます。



旬のあんこうに大満足

2月27日、片野尾地区(両津)の新イベント「片野尾あんこうまつり」が開催されました。訪れた人たちは、あんこう汁やあんこう丼を堪能していました。また、地場産の海産物の販売などに長蛇の列ができるなど、賑わいをみせていました。芸能ステージでは、片野尾歌舞伎の名場面や、地元住民のダンスなどが披露され、会場は大いに盛り上がりしました。



あんこうの解体ショー

